

## 中世における中央と地方

上横手雅敬 (京都大学名誉教授)

中世は地方の時代、武士の時代とされ、京都は没落する貴族が居住する斜陽都市と見られたことがある。然し中世においても、京都の王朝は強力な支配を保持し、武家政権はその承認によって存立し得たのである。反面、中世が分裂の時代であり、地方の自己主張を特色とすることも否定できない。こうして中央(京都)と地方との統一的把握が、中世史の基本的課題となる。本シリーズにその究明を期待したい。なおそれ以外にも多彩な問題がとり上げられることはいうまでもない。本シリーズは藤原道長の時代から豊臣秀吉の時代までを対象とし、元木泰雄氏をはじめ、中世史学界を牽引する約二十名の精鋭が、競って自説を開陳している。斬新な問題提起がなされることは疑いない。考古学の成果によって、京都の都市構造が解明されるのも楽しみである。

※ 50音順・敬称略

## 歴史の海底へ

澤田瞳子 (歴史小説家)

中世ほど、魅力的で複雑な時代はない。分散した権力、前時代とは比べ物にならない力を発揮する軍事者たち、重層的な土地支配を基盤とする主従関係。歴史小説家からすれば、いざ物語に紡ごうと挑戦しても、下手すればフィクション以上にエネルギーシユな事実の奔流に押し流されてしまいそうなのがこの時代には漲っている。ただ長年、京都に暮らす私は、そんな中世がともすれば地域史的側面から捕らえられがちなのに、漠とした違和感を抱いていた。平時に都合することはたやすい。だが激動の世にもなお京が首都であり続けた事実は、この町と中世の独自性をありありと物語っているように感じたからだ。それだけにこのたび、新たな中世史像を構築する視座のもと、『京都の中世史』が刊行されることには、胸の弾みを押さえきれない。なぜなら奔放なる旅を続けた中世、その鑑の如き京都を知ることには、ひいては日本史の深海そのものにも深く潜る行為なのだから。

## 本シリーズの特色

- ◆ 中世日本の中心(京都)の歴史的役割を、撰関全盛期から戦国時代の終焉まで、時代・分野ごとの最適な執筆者が通史的に分かりやすく描き出します。
- ◆ 撰関政治繁栄の舞台となった平安京、中世都市京都へ移行していく院政期、源平の内乱を経て公武政権の成立した鎌倉時代、動乱の南北朝時代、権力と文化の生成に大きな画期があった室町時代、諸勢力が京都争奪を企てた戦国の世という激動の中世を、最先端の研究が捉えます。
- ◆ 院・天皇、公家、武士、町衆、僧侶などの人物の動向や思惑もいねいに追って、政治・文化の舞台としての都の役割を明らかにし、時代とともに変わりゆくすがたを活写します。
- ◆ 京都は全国に対し大きな影響を与える一方で、同時に地方から波及する動きも受容していました。奥羽から九州に至る諸国との関係を検証することで、日本全体を俯瞰した新たな中世史像を描き出します。
- ◆ 近年研究が進んだ考古学の成果に基づき中世京都の構造を追究した巻も編成。文献とあわせて総合的に検証して、豊かな歴史と文化が重層した現代の京都の原像をさぐります。
- ◆ 本文理解を深める図版を多数掲載。各巻の京都地図と関連年表で時代別の特徴を明確に示し、ここでしか読めない中世の都へといざないます。



### ◆ 南北朝内乱と京都

※ 第2回配本 8月発売

山田 徹 著

978-4-642-06863-5

### ◆ 戦国乱世の都

※ 続刊

尾下成敏・馬部隆弘・谷 徹也 著

978-4-642-06865-9

### ◆ 撰関政治から院政へ

美川 圭・佐古愛己・辻 浩和 著

978-4-642-06860-4

### ◆ 平氏政権と源平争乱

元木泰雄・佐伯智広・横内裕人 著

978-4-642-06861-1

### ◆ 公武政権の競合と協調

野口 実・長村祥知・坂口太郎 著

978-4-642-06862-8

### ◆ 首都京都と室町幕府

早島大祐・吉田賢司 著

978-4-642-06864-2

### ◆ 変貌する中世都市京都

大田社一郎・松永和浩 著

978-4-642-06864-2

山田邦和 著

978-4-642-06866-6



吉川弘文館

〒113-0033 東京都文京区本郷7-2-8 [URL] <http://www.yoshikawa-k.co.jp/>  
電話 03-3813-9151 (代表) / FAX 03-3812-3544

● 吉川弘文館 特約書店名

● 『京都の中世史』全7巻を( )セット)注文します。

● 第( )巻を( )冊)注文します。

お名前 TEL

ご住所 〒

注文書

定価 各2970円(10%税込) 四六判・平均280頁・原色口絵4頁

《全巻申込受付中!》お申込は最寄りの書店、または直接小社営業部まで

# 激動する「都」の六百年!

《都市の歴史》と《首都と地域》、

2つの視点から中世京都を読み解く!

# 京都の中世史

全7巻



2021年7月 刊行開始!

企画編集委員

- 元木泰雄 (代表/京都大学名誉教授)
- 尾下成敏 (京都橘大学文学部教授)
- 野口 実 (京都女子大学名誉教授)
- 早島大祐 (関西学院大学文学部教授)
- 美川 圭 (立命館大学文学部教授)
- 山田邦和 (同志社女子大学現代社会学部教授)
- 山田 徹 (同志社大学文学部准教授)

吉川弘文館

### 刊行のこぼれ

『京都の中世史』という新たな通史を刊行することとなった。このタイトルには、二つの意味が込められている。一つは、いうまでもなく、中世において京都という都市がたどった歴史である。対象とする時代は、摂関政治の全盛期から始まり、院政と荘園領主権門の勃興、公武政権の併存、南北朝動乱と室町幕府、そして天下人の時代に至る、およそ六百年間の歴史である。その間、京都は政治・経済・文化の中心として繁栄したが、一方で源平争乱、南北朝の動乱、そして応仁の乱と再三の戦乱を経験し、放火、略奪の惨禍を蒙ってきた。為政者の変化と運動した都市構造の変容、文化の受容と発展、そして戦禍を乗り越え脱皮してゆく京都の姿を描いてゆく。また、中世考古学の成果を導入することが本シリーズの大きな特徴となる。これによって、斬新な中世都市京都の姿を明らかにするとともに、現代への影響にも言及することにした。

もう一つの意味は、中世日本の首都としての京都の歴史である。京都は中世を通して、つねに全国に対し政治・経済・文化の諸分野で大きな影響を与え、同時に地方の動きも京都に波及していた。京都と各地域の歴史とは、密接に連動するのである。中世における京都の役割、地方との関係を検証することで、ややもすれば東国偏重、あるいは地域完結的な見方に陥りがちであった、従来の中世史研究を乗り越えたい。そして、日本全体を俯瞰する視点を確立すること、新たな日本中世史像の構築を目指している。以上のように、このシリーズは、最新の成果に基づいて京都の歴史を描くとともに、京都を中心として、日本中世史を捉え直すことを企図するものである。

二〇二二年五月

元木泰雄

## 京都の中世史 全7巻の構成

### ◆第1回配本

# 4 南北朝内乱と京都

山田 徹(同志社大学文学部 著)

鎌倉幕府の滅亡後、建武政権の興亡、南北朝分立、観応の擾乱と、京都は深刻な状況が続く。全国武士はなぜ都に駆けつけて争い、それは政治過程にどのような影響を与えたのか。義満の権力確立までの六〇年を通観する。

#### ◆主な内容

- 一 鎌倉幕府の滅亡
- 二 鎌倉幕府と社会
- 三 足利尊氏の反乱
- 四 建武政権の興亡
- 五 観応の擾乱
- 六 内乱収拾の糸口
- 七 足利義満の登場

- コラム3 京都周辺の地政学
- コラム4 軍忠のレポート
- 初期室町幕府の成立
- 初期室町幕府と京都
- 初期室町幕府と社会
- 師直・直義の相剋
- 尊氏・直義の相剋
- 三度の京都失陥
- 戦乱の深化

- コラム6 右往左往する公家廷臣
- 足利義詮の執政
- 貞治・応安という時代
- 世代の転換期
- 二条良基
- 公家社会への進出
- 明徳の乱
- ビッグ・イベントの時代
- 内乱を終えて―エピソード

### ◆第2回配本

# 6 戦国乱世の都

尾下成敏(京都橋大学文学部)・馬部隆弘(大阪大谷大学文学部)・谷 徹也(立命館大学文学部) 著

戦国時代、室町幕府や細川京兆家は弱体化し、都の文化人は地方へ下った。一方、洛中洛外では新しい町が形成され、豊臣・徳川のもとで巨大都市化が進む。政治・都市・文化の様相を描き出し、戦国乱世の都の姿を追う。

#### ◆主な内容

- 一 細川高国と細川澄元の対立
- 二 細川晴元の畿内進出
- 三 三好長慶の台頭
- 四 将軍と信長の城館
- 五 乱世の都とその住人たち
- 六 乱世のなかの朝廷・公家
- 七 乱世のなかの文芸

- 中世末の城館
- 都の掌握と城館
- 初期洛中洛外図の時代
- 都市共同体の形成
- 差別的な諸相
- 朝廷と京都
- 公家に仕えた武士

- 都の文壇
- 元就・信長と文芸
- 氏真と都の寺社
- 京都改造の時代
- 洛中の大規模城館
- 巨大都市の形成
- 巨大都市の諸相
- 豊国社と大仏殿のゆくえ
- 高札・触口・ふれながし
- 首都としての伏見
- 豊臣の伏見
- 徳川の伏見
- 伏見における交流の諸相
- 中世京都から近世京都へ―エピソード

### ◆続刊

## 1 摂関政治から院政へ

美川 圭(立命館大学文学部)・佐古愛己(佛教大学歴史学部)・辻 浩和(川村学園女子大学文学部) 著

## 2 平氏政権と源平争乱

元木泰雄(京都市立大学名誉教授)・佐伯智広(帝京大学文学部)・横内裕人(京都府立大学文学部) 著

## 3 公武政権の競合と協調

野口 実(京都女子大学名誉教授)・長村祥知(富山大学学術研究部人文科学系) 著

## 5 首都京都と室町幕府

早島大祐(関西学院大学文学部)・吉田賢司(龍谷大学文学部) 著  
大田壮一郎(立命館大学文学部)・松永和浩(大阪大学適塾記念センター)

## 7 変貌する中世都市京都

山田邦和(同志社女子大学現代社会学部) 著



写真: 左から「紫雲第図屏風」(部分、三井記念美術館所蔵) / 石垣となった石仏(義昭御跡の出土品、京都市埋蔵文化財研究所蔵) / 浅野文庫「諸国古城図(山城伏見)」(広島市立中央図書館蔵) / 「洛中洛外図屏風」上杉本(米沢市上杉博物館蔵) / 松久秀像・部分(高槻市立しるあと歴史館提供) / 八坂神社 / 足利義満肖像・部分(鹿苑寺蔵) / 護良親王(山口県立文庫蔵) / 節直塚(伊丹市) いずれも本書より